

バス協会との連携による 地域観光等への支援について

－「土木構造物等に関する豆知識 ハンドブック」の作成と効果－

旭川開発建設部 技術管理課 ○森川 仁
西野 睦子
神山 繁

地域観光を支援する当部の取り組みの一環として、旭川地区バス協会と連携し、「土木構造物等に関する豆知識ハンドブック」を作成しました。

観光バスの車窓から見える土木構造物等に関する知識をバスガイドさんの案内に役立て、様々な方に「土木」に興味を持って頂くことで、地域観光の発展や建設業の担い手不足対策への一助となれば… といった作成趣旨に沿って、工夫点や効果等について紹介します。

キーワード：観光、バス協会、担い手不足、技術力

1. 当部の観光支援に関する取り組み

当部で実施している各部門の事業は、直接的にあるいは間接的に観光に資するものではありませんが、中でも忠別川の水辺整備（図-1）、美瑛川の河川空間をサイクリングロードとして活用する美瑛川かわまちづくり（図-2）、北海道縦貫自動車道や旭川・紋別自動車道等の高規格幹線道路の整備（図-3）は代表格であり、実施中の事業については早期整備に関する地域からの要望も多く寄せられています。

今回紹介する「土木構造物等に関する豆知識ハンドブック」（以下「ハンドブック」）は、当部の観光支援の一環としての取り組みです。



図-1 観光支援に関する取り組み【忠別川水辺プラザ整備事業】
（開発局ホームページより抜粋）



図-2 観光支援に関する取り組み【美瑛川地区かわまちづくり】
（旭建ホームページより抜粋 WG活動状況）



図-3 観光支援に関する取り組み【高規格幹線道路整備事業】
（開発局ホームページより抜粋）

2. ハンドブック作成趣旨

ハンドブック（図-4）の作成趣旨については、ハンドブックの冒頭に記載（図-5）されており、以下転載します。

事業を行っている私たちからすると当たり前と感じている構造物でも、一般の方から見れば「どうしてこういう形なのかな」、「こんなに大きなものをどうやってつくるんだろう」といった素朴な疑問や興味があるかもしれません。

上川地域は海外からの観光客も多く、観光バスの車窓から見えるこれらの構造物等に関する知識が、バスガイドさんの案内に役立つのではと考えました。

そこで、旭川地区バス協会と連携し、バスガイドさん達からもご意見を頂きながら「土木構造物等に関する豆知識ハンドブック」を作成しました。

前述の素朴な疑問や興味にお答えすることで、様々な方々に「土木」に興味を持って頂き、地域観光の発展や建設業の担い手不足対策等の一助となれば幸いです。

このように、ハンドブックは、地域観光の発展のみならず、様々な方々に「土木」に興味を持って頂くことで、建設業の担い手不足対策等に資することも願って作成しています。

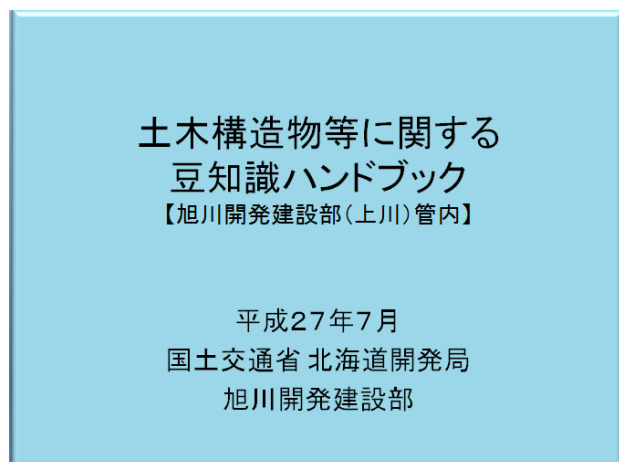


図-4 ハンドブック表紙

「土木構造物等に関する豆知識ハンドブック」について

当部は、上川管内における河川、道路、農業等をつかさどる総合行政機関として、安全・安心で豊かな暮らしを支えるべく、様々な事業を行っています。

事業を行っている私たちからすると当たり前と感じている構造物でも、一般の方から見れば「どうしてこういう形なのかな」、「こんなに大きなものをどうやってつくるんだろう」という素朴な疑問や興味があるかも知れません。

上川地域は海外からの観光客も多く、観光バスの車窓から見えるこれらの構造物等に関する知識が、バスガイドさんの案内に役立つのではと考えました。

そこで、旭川地区バス協会と連携し、バスガイドさん達からもご意見を頂きながら「土木構造物等に関する豆知識ハンドブック」を作成しました。

前述の素朴な疑問や興味にお答えすることで、様々な方々に「土木」に興味を持って頂き、地域観光の発展や建設業の担い手不足対策等の一助となれば幸いです。

図-5 ハンドブック作成趣旨

3. ハンドブック作成の取り組み

(1) 旭川地区バス協会への連携打診

平成27年1月に、ハンドブック作成の趣旨とコンテンツ（案）について旭川地区バス協会貸切委員会の会長へご説明し、連携して冊子を作成したい旨打診したところご快諾頂きました。

当課から、作成に当たっては、バスガイドさんや現場担当者のご意見を参考にしたい旨申し入れ、ヒアリングを行うことについてもご了承頂きました。

(2) バスガイドさん等へのヒアリング

バスガイドさんや現場担当者のご多忙を縫って、平成27年4月にヒアリングを実施し、日頃、バスの車窓から見える土木構造物等に関してどのような疑問があるか等についてお聞きしました。

バス協会では、既にガイド用の虎の巻が配布されており、各バスガイドさんは各地方版を活用しているとのこと。辞書のような厚さがあり、驚きとともにバスガイドさんのプロ意識や見えないところでのご努力に敬服しました。

また、皆さんにお聞きしたところ、当部の事業や土木構造物に関する知識量も豊富で、開発局や当部のHPを情報源にしているとのことでした。

ハンドブック作成に向けての意見や要望を取りまとめた結果、①土木構造物や事業の目的・どのように役立つのか、②土木構造物のつくり方や大きさ等のスペック、③車窓から見える河川・道路・農業（田畑）に関する豆知識、等に関する内容が多く寄せられました。

(3) ハンドブック作成作業（部内）

平成27年5月、バスガイドさん等のご意見・ご要望を勘案しつつ、河川・道路・農業各部門へ作業をお願いしたところ、各部門で独自の「豆知識」を考え、前向きに取り組んで頂き、多くのページを作成して頂きました。

読みやすさを考慮してQA方式にフォーマットを統一し、大きな文字で極力平易な言葉を用いるなどの工夫を行い

ました（図-6）。

道路編（附属物編①）

Q25. 道路で良く見る青い看板の大きさはどれくらいですか？

A25. 国道で良く目にする道路

標識(案内標識通称:アオ看板)は、頭上にあるのであまり感じませんが、思いの外大きく、例えば国道40号の常磐ロータリー付近に設置されている案内標識は、縦3.5m、横4.0mで、これは概ね8.6畳です。



89

図-6 例：QA方式で統一し、分かりやすく

また、バスガイドさん達を經由して広く一般の方々に「土木」を理解して頂く趣旨から、土木構造物や事業の目的に関しては、地域振興対策室の協力を得て、当部のみならず全道のストック効果資料を掲載することとしました（図-7）。

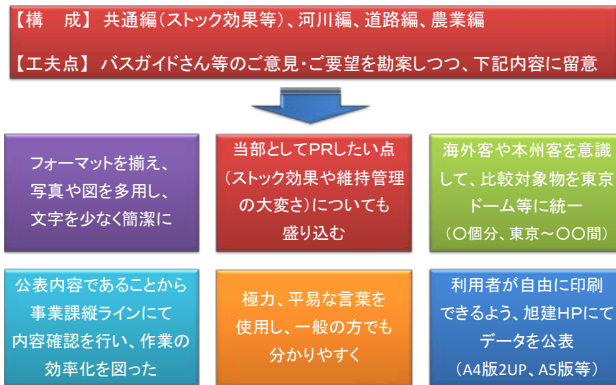


図-7 構成、工夫点

全体構成は、表紙、作成趣旨、目次、共通編(ストック効果)37ページ、河川編17ページ、道路編35ページ、農業編36ページとなっており、全体で128ページと読み応えのあるボリュームになりました。

(4) ハンドブック作成作業(バスガイドさん等との調整)

平成27年7月、部内での作業でほぼ完成した内容をバスガイドさん等にお見せし、再度ご意見をお聞きしたところ、多岐にわたる内容や文字の大きさ、ボリューム感等について好評を得ました。

また、最終的にハンドブックをどのような形にするのかについては、①利用者のニーズに合わせた大きさにできる、②各自必要な部数を必要な場所で手に入れることができる、③費用の節約、④配布する必要が無い、とい

った理由から、当部ホームページにデータを掲載し、誰でも自由にダウンロードすることができるようにすることとしました（図-8）。



図-8 旭建HPに設けたハンドブックのパナー

なお、ダウンロードについては、利用者のニーズを考慮し、①A4全ページ一括印刷(1ページ毎)、②A4全ページ一括印刷(2ページ毎)、③A5全ページ一括印刷(小冊子)、の3種類から選択できるように工夫しました（図-9）。

ご家庭のプリンターでハンドブックの印刷ができます。下記より「1ページ毎」と「2ページ毎(2UP)」を選べます。

A4全ページ一括印刷(1ページ毎) 「PDFファイル(29.976KB)」が展開されます。

A4全ページ一括印刷(2ページ毎) 1枚に2ページをまとめた「PDFファイル(29.942KB)」が展開されます。

A5全ページ一括印刷(小冊子) 小冊子を作成する印刷方法です。解説が記載されているページが展開されます。

図-9 3種類の印刷形態に対応

(5) 最終調整(部内)

全体版を各部門や幹部の視点で確認して頂きました。その際、一般の方が理解しにくい専門用語での説明になっていないかといった視点でも再度確認を行いました。以下、代表事例を掲載します（図-10～13）。

Q1. 北海道開発局とはどんなところなのですか？

A1. 北海道開発局は、国土交通省の地方支分部局として設置された、北海道における河川、道路、港湾、空港、農業、漁港等の整備、都市計画行政、住宅行政、建設事業行政、官庁営繕等をつかさどり、北海道総合開発計画を推進する総合行政機関です。(北海道開発局HPより抜粋)

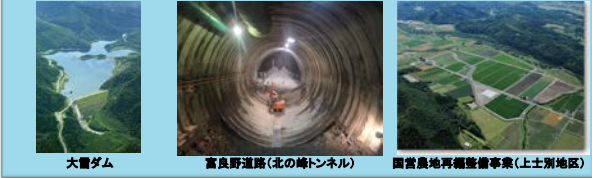


図-10 例：共通編P2

Q5. 石狩川と天塩川の長さはどれくらいですか？

A5. 石狩川の幹線流路延長(水源から河口までの長さ)は268kmで全国第3位、天塩川の幹線流路延長は256kmで、石狩川に次いで全国第4位の長さとなり、両河川とも、東京と名古屋を直線で結んだ距離(約260km)のイメージです。
ちなみに第1位は信濃川(367km 北陸地方)、第2位は利根川(322km 関東地方)となります。



図-12 例：河川編P45

Q3. 北海道で一番大きい水田を知っていますか？

A3. 北海道で一番大きい水田は士別市上士別町にあります。大きさは6.8ha(1ha=100m×100m=10,000m²)で、国営農地再編整備事業で整備した水田ですが、事業で整備する前の水田は1枚約0.5haですので、13枚の水田を1つにまとめた大きさととなり、東京ドームの約1.5倍の大きさととなります。
この水田は短辺で約130m、長辺では約520mの長さになり、これは日本で2番目に大きい水田です。
ちなみに、日本最大の水田は、千葉県佐倉市に1枚7.5haの水田があるそうです。

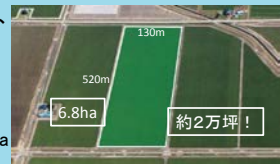


図-13 例：農業編P99

北海道産ホタテ 活きたまま海外へ！

旭川・紋別自動車道、幌富ハイパス、美深道路

before after

新千歳空港への輸送ルート

好調なインバウンド観光を背景に、北海道産の魚介類の海外ニーズが拡大

旭川・紋別自動車道等の整備によるオホーツク・宗谷～新千歳空港間のアクセス性の向上もあり、北海道からの活ホタテの輸出が実現

海外需要を確実に取り込み、輸出額は7年間で、約9倍の約310億円に成長

新千歳空港へのアクセス利便性の向上

旭川紋別自動車道未整備

4時間51分 佐呂間町 新千歳空港

現状(旭川紋別自動車道比布IC～丸瀬布ICまで開通)

4時間14分 佐呂間町 新千歳空港

水田輸送(日産)輸送量(北海道)

年次	輸送量(トン)	輸出額(百万円)
H20	5,133	5,649
H21	14,077	8,484
H22	4,022	7,532
H23	18,098	6,798
H24	24,583	9,613
H25	45,321	24,555
H26	45,549	31,000

約9倍 約310億円に増加

水田生産の産内消費シェア

用途	割合
食料	19%
工業	31%
その他	5%
燃料	9%
その他	39%

資料：農業・食料生産統計

ストック効果

図-11 例：共通編P33

(6) 完成(公表)

平成27年7月にハンドブックについて投げ込みを行い、同時にHPに掲載しました。

4. 完成後の反響・効果

業界紙2社と経済紙を含む一般紙2社の取材があり、計4紙で記事として取り上げて頂き、記者からは、「観光」や「経済」の切り口について興味深いといった感想をお持ちのようでした。

また、北海道立図書館からも問い合わせがあり、とても興味深い内容なのでプリントアウトしたものを蔵書としたい旨申し出がありました。

旭川地区バス協会では、ハンドブック完成とURLについて協会内にて周知し、順次活用していただきました。バスはどこへでも行くので、本取り組みが面的に広がればとのご意見を頂きました。

さらに、新聞記事がきっかけでハンドブックを知った旭川商工会議所のご担当から、経済界としても興味深いので、商工会議所会員宛にハンドブックについて紹介し

たい旨お話があり、後日、説明にお伺いしました（図-14）。旭川建設業協会等にもハンドブックの取り組みについてご説明し、会員に周知を図って頂き、多くの方から、社内での新人教育等に役立てたいといったお話をお聞きすることが出来ました。



図-14 商工会議所の依頼によるハンドブックの説明

数ヶ月後、バスガイドさんにハンドブック活用に関して感想をお聞きしたところ、ガイドネタとして大変参考になったとのことで、初めての取り組みで手探り状態での作成としては大きな反響・効果があったと考えています。

一方、今回の取り組みは、事業の目的や効果等を再認識しつつ、平易な言葉で文字を少なくといったことに留意するといった資料作成作業であったことから、職員の技術力向上といった観点からも、大変有意義であったと考えます（図-15）。

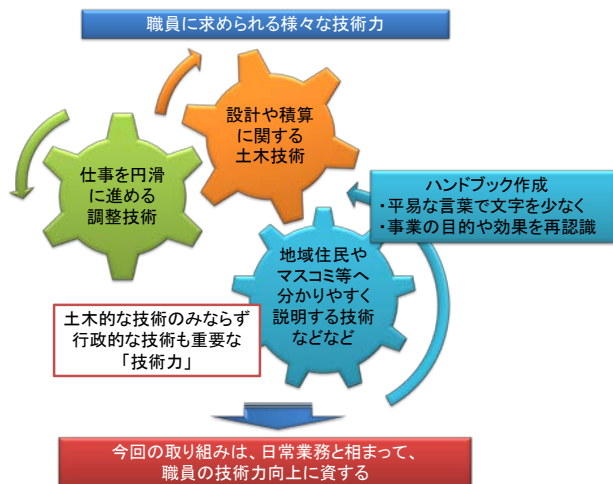


図-15 職員に求められる様々な技術力と今回の取り組み

5. 課題

バスガイドさんからの感想には、以下のような内容が

Hitoshi Morikawa, Mutsuko Nishino, Shigeru Kamiyama

あり、良い点も改善すべき点も寄せられています（図-16）。具体的には、美瑛町等で観光客による農地への侵入が問題となっており、時事ネタ的にもお客様への注意・説明に「農業編Q24」が大変役立った（図-17）というものや、修学旅行生には難しい表現・言い回しがあるため、ガイド原稿用に要約する必要があった、北海道全域版をつくってほしい等のご意見がありました。

ハンドブックに関するバスガイドさんからの感想

- ◆美瑛町等で観光客による農地への侵入が問題となっており、時事ネタ的にもお客様への注意・説明に「畑に『立入禁止』の看板があるのは何故ですか？（農業編Q24）」が大変役立った。
- ◆北海道全域版をつくってほしい。貸切りバスは地域を跨ぐ業務が多いため、色々な地域の知識があるとお客様への案内に役立つ。
- ◆農業に関する一般向けの資料が意外と少なく、富良野地域の案内では農業編が大変参考になった。
- ◆修学旅行生に説明するには、難しい表現や言い回しがある。

図-16 ハンドブックに関するバスガイドさんからの感想

農業編(営農編⑩)

Q24. 畑に『立入禁止』の看板があるのは何故ですか？

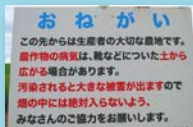
A24. 靴底や自動車のタイヤなどについて菌などで作物が病気に感染する可能性があるからです。

(例)ジャガイモシストセンチュウ

ジャガイモの根から養分を吸収し収穫量を減少させる害虫です。この害虫は、一度畑に侵入すると完全に根絶させることが難しく、ジャガイモ生産に重大な影響を及ぼします。

※ この害虫は自動車のタイヤ、靴などに付いた土と一しょに移動し、広がるおそれがあります。

※ この害虫は人体には無害であり、ジャガイモを食べてもまったく問題ありません。



120

図-17 例：バスガイドさんに特に好評だった内容

また、ストック効果をはじめ、ハンドブックのコンテンツには賞味期限のある内容もあることから、適切な更新作業が必要となります。ページレイアウト等の関係から、単純に開発局HPのストック効果データにリンクさせるわけにもいかず、どうしても部内での更新作業が必要となり、当課として忘れずにハンドブックのメンテナンスを継承していく必要があります。

6. まとめ（今後に向けて）

部内でも、ハンドブックを新人教育に活用したい、他部門の事業等を知る上でとても役立つといった意見があり、派生的な活用手法の可能性についても検討していきたいと考えています。

また、前述の課題を踏まえ、適切な時期にバスガイドさん等のご意見に極力沿った内容でハンドブックの更新作業を行いたいと考えています。

ハンドブックがきっかけとなり、様々な方々に「土木」に興味を持って頂き、地域観光の発展や建設業の担い手不足対策等の一助となればと思います。

最後になりますが、ご協力頂いた旭川バス協会や関係課所の皆様に御礼申し上げ、本論文を終わりたいと思います。引き続き、ご協力頂ければ幸いです。